

### 5月駐在員レポート（瀋陽・北京合同）

今回は瀋陽事務所、札幌経済交流室合同でレポートしたいと思います。去る5月31日から6月1日まで瀋陽にて今年で10回目を迎える日中経済協力会議が開催されました。この会議は日中の東北部が中心となり多数の日中経済政治トップクラスが集まりました。北海道からは札幌商工会議所の滝沢副会頭をはじめ、札幌市産業振興部長、(財)さっぽろ産業振興財団専務理事等が参加しました。会議は総会、分科会、日中双方の要人のスピーチ・プレゼンという流れで行われ、今後、更に日中間の連携を更に深めて、共に経済発展を加速させていく事を確認しました。

今回は会議の開催に合わせて、瀋陽日本総領事館呼びかけのもと、日本自治体の観光・物産を瀋陽の人達にアピールするための‘プラットフォーム’が、有名企業が多数入っているノースメディアビルの4階にプレオープンしました。

このプラットフォームには札幌市・北海道庁をはじめ、宮城・新潟等日本の各自治体が出展しています。このプラットフォームの実現に関しては企画段階から大きく瀋陽事務所が関わりました。本格的なオープンは、札幌-瀋陽友好都市締結30周年の事業が行われる8月末になります。現状はプレオープンですが、本格オープンに向けてコンテンツを充実させ、中国の方に日本の各地方への理解を深めてもらう良い機会として今後有効に活用していきたいと思っています。上記の通り、今年は札幌-瀋陽の友好都市締結30周年のイベントが8/29より瀋陽各地で開かれ現在様々な企画を検討しています。その模様については9月の駐在員レポートでまたご報告いたします。

正司 毅  
 中島 康成



開幕式



### SAKURA

今年のサハリンは例年になく雪が多く、寒い厳しい冬でした。市内の雪解け後も、なかなか暖かくならず、「春はどこに行ったのか？」という当地でしたが、6月に入り春を飛び越えて初夏の気候を迎えました。「春=桜前線」というイメージをもつ方も多いと思いますが、当地も、樺太と呼ばれた日本時代もあることから、市内の至る所に桜の木を見る事ができ、6月をむかえ、桜前線もようやく当地にたどり着きました。ロシアの方は自然を愛し、大のお花好きであり、また日本の文化にも大変興味をもっていることから、日本の国花でもある桜は大人気で、当地での最近時の造園の際は、桜の苗木は必需品であるような状況です。またロシア語にもSAKURAという言葉があります。ロシア=豪快・ダイナミック・粗野というイメージを持つ方も多いと思いますが、小職の友人のロシア人の多くは、桜の花を愛でる心優しい方が実に多く、文化的な側面については、教えられる事が多々あります。



樋口 充